



6日(火)、第7回海洋教育写真コンテストの表彰式を行いました。

このコンテストは、「子どもたちから見た三浦の海」をテーマに、海洋教育の中の「海に親しむ」を目指して行っています。

応募点数は906点で、三浦市の児童・生徒の3人に1人が応募したことになります。子どもたちの、海に対する関心が高まってきているのが分かります。

星野代表理事のあいさつでは、「子どもたちの、大人では気が付かない視点に驚いています」というお話がありました。東京大学三崎臨海実験所の三浦教授からも、「海には、不思議なことが、まだまだたくさんあるので、みなさんの目で観察を続けてほしい」という講評がありました。



海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介その1

これから、第7回海洋教育写真コンテストの入賞作品を紹介していきます。

海の生き物部門の最優秀賞です。三崎中学校の3年生石塚大祐さんの作品です。タイトルは「風に乗る」です。

海外(かいと)の海岸で撮影したそうです。主役の鵜が飛び立つ瞬間の躍動感が伝わってきます。まさに、「風に乗る」というタイトルにマッチしています。鵜が羽を広げている姿も美しいです。文句なしのナイスショットです。



続いて、海の生き物部門の優秀賞の作品です。

初声小学校1年生の桑山旅穹(りよく)さんの作品で、タイトルは「魚のまち」こませに群がるたくさんの魚の動きをとらえた作品です。

左側の黒く見える魚、そして、白く見える右側の魚が、海面に反射する光と、水の波紋によって、左側から移り変わるグラデーションのように見えています。とても幻想的な作品です。

剣崎小学校2年生の熊谷海斗さんの作品で、タイトルは「体スケスケなのに強そう」。海藻と岩の色彩が、イソスジエビをカモフラージュしているかのように見え、生き物の身の守り方を教えられる1枚です。水中で、しかも分かりづらい中で、エビを発見できたところに努力が見えました。海斗さんにとって、イソスジエビがヒーローのように見えたのでしょうか？



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで